

単
元
名

「現代の経営者に学ぼう」

令和4年 11月21日(月)

第1学年 A組:27名 B組:28名

本単元で育成する資質・能力

分かる・できる, 考え・決める力, 伝える力, 進んでやる力, やり抜く力

1 題材設定の理由

単元について

本校は、自己を認識し、自分の人生を選択し表現することができること、また、自分で自分の将来を切り拓いていけるような態度を育成するキャリア教育を進めている。

本学年の本単元は、現代の社会情勢を把握し、未来を考えて行動してきた現代の経営者に学び、未来を予測し、どのように考えて行動すべきかについて学ばせる単元である。

現代の経営者はいかにして未来を予測し、業務を拡大してきたのか。また、どんなことに苦労したのか。持続可能な社会の実現のために今後どのような経営を考えているのか等を調査し、今後の自分の生き方に繋げていく。

自己の将来や今後の社会が抱えている問題などに気付き、探究活動に主体的・協働的に取り組ませていきたい。また、自己の生き方との関わりを考え、よりよい地域社会を目指し、行動していけるような態度を育成していくことをねらいとしている。

小学校に引き続き、目的に応じて調べたり、グループで互いの考えを伝え合い、互いの考えの違いやよさに気付いたりする中で、本単元で身に付けたい「考え・決める力」、「伝える力」、「進んでやる力」、「やり抜く力」が育成できると考える。

生徒について

事前に行った意識調査において、肯定的に回答した生徒の割合は次のようになっている。

- ①将来、自分がどのようにして生活していくか考えをもっている。76%
- ②国際情勢について関心がある。66%
- ③授業等で自分の考えや意見を進んで発表している。48%
- ④自分の考えとその理由を明らかにして、友達に分かりやすく伝えるように発表を工夫している。60%
- ⑤友達と話し合うなどして、自分の考えを広げたり、深めたりしている。86%

調査の結果から、友達と話し合い、自分の考えを深める主体的・協働的な探究活動ができている生徒は多いが、意見を進んで発表したり、分かりやすくなるように工夫したりする事に課題のある生徒もいることが分かった。また、国際情勢への関心も高くないことが分かった。実際に生徒と接する中でも、取り入れる情報に片寄りがあったり、ニュースと自分の生活に結びつけて考えることができる生徒は多くない。

協働学習を多く取り入れることで物事を多面的に捉えることができるようにさせたいと考えている。また、表現力や主体的に発言することにも課題があるので、グループで発表内容の精度を高めしていくことで自信を持って発表できるように工夫させたい。さらに、他者の発表を聴く機会を多く設定することで自身が表現する際の工夫へと繋げていきたい。

2 研究主題に迫るための工夫

①調べる経営者に片寄りがないようにある程度の知っておいてほしい経営者を事前に提示する。主体性を伸ばしていけるように個人で興味・関心のある経営者について調べさせる。

②調べた内容を共有していくことでお互いの視点の違いに気付いたり、意見の違う場合は、考えをまとめていく過程を通して協働することの意義を学ぶとともに、相手に分かりやすく伝える事の大切さや工夫なども学ばせる。

③公開授業にすることでより精度の高い発表を目指す動機付けとしたい。

3 単元の目標

- (1) 他国の情勢も日本や自分と関わりがあることが分かる。〔知識・技能〕
- (2) 経営者の工夫や考え方を調べることで、自分たちの生き方を考えることができる。また、調べた内容を相手意識をもって表現する。〔思考力、判断力、表現力〕
- (3) 協働して活動することで、より良い取組が実践できることを実感させ、自己の生き方に反映させる。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 本単元の評価規準

育てようとする資質・能力		評価規準
(1) 知識・技能	① 分かる・できる	情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
(2) 思考、判断、表現	② 考え・決める力	実社会や実生活に結びつく複雑な事象における課題について、考える技法を適切に使いながら筋道を立てて検討し、自分やみんなの目標や計画などを決めることができる。
	③ 伝える力	考えたことや決めたことなどを、相手や目的に合わせて適切な方法で伝え合うことができる。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	④ 進んでやる力	課題解決に向けて決めたことなどに、計画的、協働的に進んで取り組むことができる。
	⑤ やり抜く力	課題解決を願い、共通の目標に向かって、困難にくじけることなく努力してやり抜くことができる。

5 指導計画 (全6時間)

次	主な学習活動	時数	評価規準 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ Amazon や Apple 等の創業者について知る。 ・ 経営者は業務を拡張していくのにどんな苦労があったのかを知る。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の調べてみたい経営者を決める。 ・ 自分の調べた経営者について調べ、まとめる。 ・ 個々で調べた経営者について班内で説明するとき気をつける点を考える。 ・ 班で全体に発表したい経営者を決定する。 ・ 班で発表する経営者についてのプレゼン資料を作成する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会や実生活に結びつく複雑な事象における課題について、考える技法を適切に使いながら筋道を立てて検討し、自分やみんなの目標や計画などを決めることができる。 ・ 考えたことや決めたことなどを、相手や目的に合わせて適切な方法で伝え合うことができる。 ・ 課題解決に向けて決めたことなどに、計画的、協働的に進んで取り組むことができる。 ・ 課題解決を願い、共通の目標に向かって、困難にくじけることなく努力してやり抜くことができる。
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○多くの経営者の業績を知ることで自己の生き方を考える。○各班で調べた経営者を発表し、互いに評価する。その中で互いの表現の仕方を学ぶ。(本時)</p> </div>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことや決めたことなどを、相手や目的に合わせて適切な方法で伝え合うことができる。 ・ 課題解決を願い、共通の目標に向かって、困難にくじけることなく努力してやり抜くことができる。

6 本時の展開 (本時 6 / 6時間)

(1) 本時の目標

- 各班の発表を聞き、学んだことを自分の生活に結びつけて考えることができる。

(2) 学習の展開

記号については、以下の通りである。

指導上の留意点 (◇), 「努力を要する」状況と判断した児童への手立て (○), 教師の発問 (【意図】), 研究に関わる表現力向上のための手立て (□内)

学習過程	学習活動と生徒の姿	教師の役割
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">出会う・見通す</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">関わる</p>	<p>事前：発表用の機器の確認を行う。</p> <p>1 今日のめあての確認</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：①経営者の活動を知り、自己の生き方に生かせる部分を見つける。 ②各班の発表を聴き、発表の良い点を見つける。</p> </div> <p>2 発表のルールと評価の仕方についての確認する。</p> <p><発表のルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間は5分 ・質疑の時間を3分設ける。 <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>表現力向上のための手立て①</p> <p>質疑を行うことで発表者だけでなく、聞き手にも緊張感をもたせる。</p> </div> <p>3 各班の発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会は担当生徒が行う。 <p>司会</p> <p>(1) ○班の発表をお願いします。</p> <p>(2) 今の発表への質問はありますか。</p> <p>※手が挙がらない場合も誰かを指名する。</p> <p>※指名された場合は質問はなくとも良かった点をコメントする。※回答を班に促す。</p> <p>(3) それでは評価を1分間で行ってください。</p> <p>※(1)～(3)を繰り返していく。</p>	<p>事前：発表用の機器の確認を行う。</p> <p>評価シートは配付しておく。</p> <p>デジタイマー準備</p> <p>□ 発表ルールと評価の仕方について説明する。 (評価シートにも説明を載せておく。)</p> <p><発表の評価の観点></p> <p>①時間を有効に使っているか。(時間を越えるのも減点対象だが、1分以上余らすのも減点)</p> <p>②分かりやすい発表であったか。(なぜその人物を調べたのか・企業を運営したり起業するための工夫が分かったか。等)</p> <p>③表現方法に工夫があったか。(相手意識を持った発表であったか。等)</p> <p>④質疑への対応はどうだったか。</p> <p>○質問に答えられない場合の返答の仕方等も考えさせておく。</p> <p>◇司会や発表者のフォローを行う。</p> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border-radius: 10px; margin: 10px 0;"> <p>表現力向上のための手立て②</p> <p>多くの発表を聴くことで表現方法の工夫を体感できるようにする。</p> </div> <p>○班員には想定される質問とその回答も準備させておく。</p>

まとめる	<p>4 振り返りを行う。</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習で自分の生活に生かせると思った点 ・各班の発表で工夫されていて自分も取り入れたいと考えた点 ・自分の発表の反省の点 	<p>◇巡回して良い振り返りを確認しておく。</p> <p>□何人かを指名して振り返りを発表させる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>表現力向上のための手立て③</p> <p>良い点や工夫点を共有することでお互いの自己肯定感を向上させる。</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>授業者の振り返り：各班の工夫点や経営者から学んだことをどのように自分の生き方に結びつけているか等を評価する。</p> </div>	

7 成果 (○) と課題 (●)

<p>1 「本質的な問い」による単元（題材）構想について</p> <p>○ 本単元の本質的な問いに対して、生徒は高い興味・関心をもって、単元を通して自己の考えを深めることができた。第一次の学習で平成元年には世界の企業の時価総額の上位がほとんど日本の企業だったのに最近の調査では一つの企業も入っていないことから問題意識を持つことができていた。それぞれが調べたことの中から班で発表する材料を決めさせたことでより良いものを表現することや協働することの大切さを実感できていた。</p>
<p>2 単元（題材）で育成を目指す資質・能力について</p> <p>事後に行ったアンケートでは次のような結果となった。</p> <p>①将来、自分がどのようにして生活していくか考えをもっている。82.7%（事前76%）</p> <p>②国際情勢について関心がある。55.7%（事前66%）</p> <p>③授業等で自分の考えや意見を進んで発表している。53.8%（事前48%）</p> <p>④自分の考えとその理由を明らかにして、友達に分かりやすく伝えるように発表を工夫している。69.2%（事前60%）</p> <p>⑤友達と話し合うなどして、自分の考えを広げたり、深めたりしている。84.6%（事前86%）</p> <p>このように、自分の将来について考える機会となったこと、自己表現への意識も改善することができた。また、協働で発表内容を作成したり、協働で発表したりすることで表現の質を向上することができた。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○タブレット等を用いて積極的に情報を収集する姿が見られた。特に金融教育や経営者について調べる機会は多くなかったので興味・関心をもって情報収集を行うことができていた。</p> <p>●事後アンケートにおいて、事前アンケートより約10ポイント減少した。要因としては、学習課題を生徒に決定させたことで身近な国内の経営者を選んだ生徒も多く、国際情勢との繋がりを意識させるまでに至らなかったと考えられる。</p> <p><生徒の記述>「苦手なことは人に任せるなど仕事を効率よく進める方法を学んだ。」</p> <p style="padding-left: 20px;">「経営者の考え方や働き方を知り、他の人と違う考え方をしていくことを真似していきたい。」</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○10月に行った発表と比較すると、表現の工夫やタブレットの活用の仕方にも向上が見られた。アンケートの結果においても表現の工夫が9ポイント向上している。振り返りの記述にも新たな課題について触れ、今後につながるような記述も見られた。</p> <p>●「自分の考えを広げたり、深めたりしている。」の項目が1.4ポイント減少している点が課題として挙げられる。84.6%と高い数値ではあるが、今後もお互いに評価し合い高め合う機会</p>

を多く設定することで、協働することの効果を実感させていきたい。

<生徒の記述>「発表の時に下ばかり向いてしまっていた。」

「緊張で早口になってしまい、時間が余ってしまった。もっと落ち着いて調べたことを話したい。」

【主体的に取り組む態度】

○「将来、自分がどのようにして生活していくか考えをもっている。」が6.7ポイント上昇したことからもわかるように先人の行動に学ぶことで、前向きに自己の将来を考えることのできた生徒が多かった。振り返りの記述にも自己の将来について前向きに考えるような記述が見られた。

<生徒の記述>「ニトリの社長さんが課題を克服した方法を頭に入れて行動したい。」

「経営者の考え方や働き方を知り、他の人と違う考え方をしていくことを真似していきたい。」

3 「デジタル機器」の活用

○キーノートやロイロノートを活用してプレゼン用の資料を作成した。クイズ形式で発表を行ったり、アニメーション機能を活用したりと工夫して作成していた。特に二つの企業を比較しながら説明を行い、その二つの企業が共同で開発を行った事なども含めて発表を行ったグループは大変わかりやすくまとめることができていた。

●調べた内容を全て入れようとして画面が文字だらけになったり、説明のスライドの構成ができなかったりしていた。指導者が事前に発表の例を示すなど指導を必要とするグループもあった。